

平成 24 年度

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホームほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果確定日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年2月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設は特別養護老人ホームとの併設であるため、互いに連携を図りながら、利用者様の入退所がスムーズに行えるように運営ができる。近くには花公園や大池があり、天気の良い日には花見やドライブに出かける等、季節毎に豊かな自然を満喫していただいている。又、地域の行事に参加したり、ボランティアの方と将棋をしたり、幼稚園から慰問を受けたりと地域交流も行っている。</p> <p>各ユニットで理念を掲げ、利用者様に寄り添う介護を目指し、各研修にも参加していくよう心掛けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年未曾有の豪雨に見舞われたほしのさとは、高台にあるため建物の損傷はなかったものの、停電や食料・水不足、通勤できない職員の補填に追われた。その中、入居者は特段不穏状態になることはなく、入居者の経験や体験の豊かさに気づく機会にもなっている。近々、関係機関と水害対策の振り返りを行う予定で、地域ぐるみの災害対策が期待される。今年も鬼火焚きを見学したり、近隣の幼稚園とクリスマス会や運動会での交流が継続している。そして、帰宅願望が強かった入居者が「ここが良い」と話したり、胃ろうを造設した入居者の食べたいとの思いを叶えるなど、各ユニットの理念である後悔しない介護や感謝の気持ちを持つケアを実践している。昨年2名の離設者があり、玄関のセンサー設置、職員の連携、出入り業者へのお願ひ書面を玄関に貼付し、再発防止策に取り組むなど、様々な経験を活かし、母体法人の理念の地域福祉の向上を目指している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **星寿園GHほしのさと/野ぐる一歩**

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの職員で考えた理念を掲げ、利用者様に寄り添う介護を実践している。	母体の社会福祉法人の理念を踏まえ、各ユニットの理念に後悔しない介護や感謝の気持ちを持つ等を掲げている。職員にアンケートを取り、ユニット理念の見直しも予定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は7月に豪雨災害を受けたため、地域の夏祭りや敬老会が中止となったが、最近では鬼火焚き等の行事に参加している。	鬼火焚きの見学に出かけたり、近隣の幼稚園とクリスマス会や運動会での交流が継続している。地域の方々の来訪を促すために、区長会の見学で理解や協力をお願いしたり、作成しているチラシの活用も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で区長、民生委員の方に利用者様とふれあう機会を作っていただくよう、慰問やボランティアの依頼をしている。地域の方にボランティアで将棋の相手をしてもらったり、福富来会というサークルに参加し、意見交換など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、日常生活状況やサービス状況を報告している。参加者からの意見、アドバイスを運営の参考にさせていただいている。	家族、市担当者、民生委員等の参加で定期的に関催され、会議録を整備している。市担当者から道路の凍結防止剤の散布を説明されているが、次の会議で家族から職員の安全な通勤に配慮し、タイムリーな散布が提案されている。	運営推進会議の周知や家族等の参加を促すために、ほしのさと便りやホーム内の掲示等で、会議内容の公表をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただいている。又、行政窓口へ出向いたり、現状報告や相談を行い、アドバイスをいただきサービスの質の向上に努める。	市地域連携部署から母体法人に情報提供を受けたり、法人から居室状況を連絡したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成している。帰宅願望の強い利用者様に同伴し、散歩を行う。又、母体である特別養護老人ホームで開催される研修等に参加している。昨年は胃ろう利用者様にミトンを使用していたが、現在は使用していない。	2名の離設者があり、離設防止対応策を作成している。玄関のセンサー設置、職員の声かけによる連携、出入り業者へのお願いの書面を玄関に貼付し、再発を防止している。夜間玄関を開錠する入居者もあり、ドア上部につっかえ棒を設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法マニュアルを作成し、職員はそれを遵守している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理の必要な利用者様においては、親族に後見人をつけていただき、利用者様が安心して生活されるよう支援している。	事業や制度のパンフレットは未整備で、利用者や家族への説明は行っていない。	多様なニーズに対応するために、日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを整備し、相談窓口や内容を共有する学習会をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族、利用者様と共に説明を行い、納得の上で契約を行っている。また、改定の際はご家族に直接説明を行い文書にて配布している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、意見等投書はない。運営会議や担当者会議を行い、家族や地域の役員の方より意見をいただき、運営に生かすように努めている。又、事業所以外の第三者相談窓口も説明している。	入居者の日頃の様子、行事や外出のスナップを満載したほしのさと便りを発行し、意向を表出する機会を設けている。各ユニットの居間にも、運動会の様子等のスナップ写真が掲示され、担当職員が作成する誕生日プレゼントも好評である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開き、利用者様の様子、状況及び業務その他について話し合いを行い、適宜改善に努めている。	各ユニット毎の会議や全体会議を開き、管理者が事案に応じて、法人運営会議で提案している。会議では、施設の方法や受診同行等を考慮した勤務時間の見直しを話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月母体事業所との運営会議や単独でのケア会議にて、各事業部の実績や状況を確認し、スタッフへ申し送り情報の共有に努める。職員一人一人が向上心を持って働けるような研修等が必要と思われる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用においては、性別・年齢等の制限はないが、採用は母体事務所が決定する。	採用の際、勤務先を施設またはホームにするかを尋ねられたり、施設からの異動もある。昨今離職者があり、職員の意見を伺いながら、ユニット間で異動している。常勤職員が多く、30分の昼休みを60分に変更したり、希望したリーダー研修や認知症ケア研修に参加している職員もいる。昨年は見学にきた大学生が就職を強く希望して、生き生きと介護の仕事に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待等の事例を挙げ、利用者様の尊厳を守る介護を心掛けるよう指導している。	法人主催の研修もあるが、ホームでも日頃から言葉遣いについて、気づきを話し合っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会(基礎研修、実践研修)や認知症サポーター養成講座及び施設内、外の研修への参加を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への見学や部会等を通じて交流を図ったり、又、年4回地域の他施設同業者と介護に関する勉強会を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの訴えを傾聴し、不安な事や要望、続けたい事など、安心してサービスを利用できる様に配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族と面談し、ご家族の意向・要望を聞き、サービス提供へと繋げている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人との面談を行い、サービス内容の説明を行い、納得を頂いた上で契約を行うようにしている。又、必要と思われる状況・状態の場合は、他事業所の紹介を行う場合もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意向をできる限り聞きながら、ご本人の残存機能に目を向け、一緒に食材揃えや片付けなどの作業をしながら、暮らしを共に送っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活の様子や変化があった場合等、面会の際にお話したり、緊急の場合は電話にて報告したりしている。ご本人様の要望があれば電話で話していただく時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や季節行事などの際、外出支援を行っている。買い物や散髪など要望があれば外出支援をしている。	地域行事に参加したり、地域特産のお茶摘をして入居者の楽しみを作っている。地域の方々に「遊びに来てください」と呼びかけのチラシを作り、理解や協力に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リーダー格の利用者様を中心にお謡いの練習をするなど、利用者様が孤立されないよう、またトラブルがないよう、関係を観察し和やかな共同生活が送れるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された方やその家族から相談があれば支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動や行動の変化や意向の把握に努めている。 ご家族に協力いただき、以前住んでいた地へ出かける支援を行っている。	職員を担当制にして意向の把握に努めている。訪問調査当日、昼食時に謡等の趣味、大工の職歴、おしゃれたと紹介され、笑顔になる入居者もあった。男性入居者の思いを傾聴する管理者の姿もあった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集を行い、入居後も一人一人に不安のない暮らし方に必要な情報を収集しサービス利用につなげられるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、利用者様の様子観察を行い、心身状態の変化、体調の変化に気付いた時は、記録を残し、申し送り、情報の共有、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き、各担当者より利用者様の様子や状況報告を聞き、またご家族の意向を伺いながら支援計画の作成につなげている。	毎月担当職員がモニタリングを実施し、ケア会議で計画を見直している。帰宅願望が強かった入居者が「ここが良い」と話すまでになっている。胃ろうを造設した入居者の食べたいとの思いを叶えるために、ケアの留意点を記載した介護計画を作成している。	入居者の意向が変化した経緯を詳細にモニタリングし、計画の見直しに活用されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日誌によって情報共有できているが、介護計画の見直しまでは至っていない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態、ご家族の要望を聞き、折り合いがつかない時もあるが、個々に応じたサービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カットサービスボランティアには来てもらっているが、地域活動支援までには至っていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医の受診が必要な時は、ご家族の意向を伺い、主治医に紹介状を書いていただき、受診、通院を受けている。	法人代表がかかりつけ医のため、十分な連携が取れている。胃ろうを造設した入居者の定期受診を支援したり、専門医受診は基本は家族が付き添うが、家族の要望や事情によっては受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を受け取ったら、その後の結果や治療方針などを申し送り、ノートに記載し、スタッフ全員が統一した支援ができるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を行い、通院時は病院関係者より電話、サマリーなど情報を受けて利用者の身体状況の把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った時点ではご家族等と話し合いを行うようにしている。エンゼルケアは全員知っておく必要があるが全員には至っていない。マニュアルは作成中である。	胃ろう造設した入居者もあり、今後についてはその都度主治医と家族で十分な話し合いをお願いしている。また、「ここを出たら行く所がない」と話す入居者もあり、ホームで医療的支援ができないことを了承していただく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは、作成しているが、訓練、研修には至っていない。AEDの使い方は研修を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の助言をいただき、火災避難訓練を実施しています。災害時には併設の施設と連絡体制をとっています。	昨年の未曾有の豪雨では、停電や食料・飲料水不足等を経験している。道路切断や不通のため、勤務できない職員もあった。救援物資や飲料水の配給、ドクターヘリによる医療施設への搬送、近隣のデイサービスのお風呂の利用等で、復旧までしのいでいる。	関係機関で今回の水害の振り返りの話し合いによる地域ぐるみの災害対策や連携を、他市他町に発信されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった時間を過ごしていただけるようにしている。人格の尊重もできていると思う。個々の性格や生活環境にも配慮し、対応に努めている。	言葉遣いに日頃から留意している。各入居者の性格や職歴、状況に応じた声かけが行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけでなく、何でも尋ねて自己決定、判断をしていただく。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人ご本人のペースで1日の流れを作るような支援ができています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回のカットサービス、選べる方は好きな服を選んでいただく。化粧をする。(たまの外出時など)		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を一緒に切ったり、野菜揃えや食器の片付けなど一緒に行く。又、誕生日の日には、ご本人の好みの物をメニューに入れる等の工夫もしている。	誕生日当日、本人の希望のメニューでお祝いでいる。希望の芋まんじゅうを入居者に教えていただきながら作っている。胃ろうを造設した入居者から「食べたい」と希望があり、少量のプリンを摂取している。「美味しい」との言葉に、職員一同、喜んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を定期的に提供する以外にも、必要に応じて提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、義歯洗浄を促す。自力でできない方に関しては、スタッフが預かり洗浄を行う。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、各個人排泄間隔の把握に努め、トイレ誘導を行っている。又、歩行困難な方は、2人で介助を行ない、できるだけトイレで排泄できるよう心掛けている。	「排泄はトイレでしてほしい」との方針を、食事前や時間毎の声かけや誘導、ズボンの上げ下ろしの介助等で実践している。「厠」より「便所」のほうが理解しやすいのではとのアドバイスを受け、両方を掲示している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを細めに行い、必要に応じて主治医へ相談。体操を行い、体を動かすように努めたり、下剤の処方を行っていただく。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ同性介助を行ない、安心して入浴していただけるように努める。	ADL等の低下で各ユニットとも車イスの利用者がいるが、できるだけ浴槽に浸かることを支援している。転倒後、浴槽に入るのが怖いと訴えられる入居者に、2人体制による介助や声かけで支援している。浴槽に浸かると喜ばれることが職員の励みになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り無理強いせず、本人様のペースに合わせて、居室やホールを利用し、生活していただけるよう努める。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は連絡ノートに記入したり、口頭で申し送りしたり、職員全員が把握するように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜を育てたり、食事の準備や後片付けとしてテーブルを拭いていただいたり、ダンボールを片付ける手伝いをしていただく。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や春・秋の季節の良い時に外出を実施している。又、個人支援として自宅までの外出(ご家族の協力を得ながら)等も実施している。	桜、つつじ、蛍、アジサイ、花火見学のスナップがほしのさと便りに掲載されている。入居者の笑顔から、外出がリハビリや楽しみに位置づけられていることが伺える。また、パートナーの納骨やズボンの購入等の個別の外出を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしているが、ほとんどの利用者様は所持されていない。数名の方のみご家族とご本人の了承のもと、ご本人が管理され、外出時には買い物等ができるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでもご家族に電話ができるようにしている。ご家族にもご協力を依頼している。また手紙のやり取りも支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、毎月環境整備を行ったり、手作りで壁にぬり絵や折り紙を貼ったり、行事などの雰囲気作りには充分配慮を行なっている。	各ユニットの中央に玄関があり、入口の大きな花器に梅の花が活けられている。共用空間は天井が高く、掃き出しの窓の前にウッドデッキが設置され、明るくゆったりとしている。中庭を囲むように居室が設置され、中庭の渡り廊下は日当たりが良く、格好の物干し場にもなっている。居間の椅子で寛いだり、ソファで昼寝をする入居者もある。床暖房で素足の職員もあり、清掃や空調、匂いに配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事フロアにソファを置き、気の合う方とゆっくりくつろいでいただけるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者様、ご家族が持ち込まれた物を配置してあり、なじみのものに囲まれて過ごしていただいている。	居室の前には名前が掲示されているが、大きく書かれた掲示もある。入居者の状況に応じて電動ベットや、家具調ポータブルトイレを設置している。椅子や日用品が置かれ、家族の写真が飾られている居室も多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、廊下等は整備し、転倒予防を心掛けている。トイレ、浴室にも支援バーや手摺りをつけ、不全麻痺のある方も安心して生活できるよう支援している。利用者様ができる事を尊重し、生活の中でのリハビリを取り入れ自立した生活を支援している。		